

主体的に学習できる児童の育成
～読む力を伸ばす指導を通して～

I 研究の内容

1 読む力が高まる国語科の指導方法を探る。

(1) 理論研究及び学習を通して、共通理解を図り具体的指導法を探る。

ア 指導主事を招いての学習会（教育事務所 泉久功指導主事）

◎国語科の指導方法について

「三読法」「一読総合法」「文芸研方式」「分析批評」

◎語句力を高めるための指導法について

「飽きがこない繰り返しの指導の工夫」「読書指導の大切さ」「日常のショートタイムで取り組める言語活動例」

イ 模擬授業

「3年 ちいちゃんのかげおくりー第4場面」について、「一読総合法」「三読法」「文芸研」「分析批評」の方法を使って8～10分ずつの模擬授業を行い、意見交換した。

(2) 読み取り指導の工夫ー読む力を育てるための授業改善ーをする。

ア 研究授業

◎低学年ブロック：第2学年

目指す言語能力：「場面の様子や登場人物の気持ちの変化を捉えながら読む力」
教材名：「お手紙」

1の場面と4の場面を「対比」させることで、場面の様子や二人の気持ちの変化を読み取っていった。その際、挿絵も有効に活用した。また、全場面のワークシートも作成した。

（授業者 池田理恵子教諭 指導助言 成澤宗克指導主事）

◎高学年ブロック：第5学年

目指す言語能力：「叙述に即して情景描写などを味わう力」
教材名：「大造じいさんとガン」

残雪が旅立つ朝の大造じいさんの心情と情景描写の効果について考えた実践である。心情以外の読みの視点を与えることで、文学作品の読み取りに課題のある児童が考える時の手がかりになるようにした。

（授業者 町田信次教諭 指導助言 保坂伸典指導主事）

イ その他の実践

第1学年：「たぬきの糸車」（三森益子教諭）

第3学年：「モチモチの木」（筒井ひさ美教諭）

第4学年：「ごんぎつね」（高石圭子教諭）

第6学年：「やまなし」（中村裕司教諭）

授業後、参観した先生方から「教師の指導、支援、発問、授業の展開の仕方、児童の様子」についての感想をいただき、今後の授業に生かせるようにした。

2 読む力を支える日常の指導に取り組む。

(1) 音読指導の工夫

昨年度からの取り組みを生かし、塩刈有紀氏の音読バリエーションを参考にしながら、音読がどのような場面やねらいで使えるかを「音読指導バリエーション72」としてまとめ、日々の授業に生かした。

(2) 視写指導の工夫

昨年度と同様に、到達基準（各学年の終了時までの目標）を掲げ、視写速度が上がるように授業に取り入れた。

(3) 語句力を高めるための工夫

「漢字の指導法」「新出漢字を使った短文作り」「語句を増やすためのプリント」「辞書の活用」「今日のことわざ」「新聞スピーチ」について話し合い、実践した。

(4) 読書活動の工夫・充実

図書委員会と連携したり週2回の朝読書を通して「本に手をのばす児童」や「読書の楽しさを味わう児童」の育成を図った。

II 成果と課題

- 模擬授業、研究授業、一人一実践を通して、いろいろな指導法について学び合うことができ、読む力を育てるための授業改善に役立つことができた。
- 音読指導バリエーションを各学年で実践し、有効性などを情報交換することができた。また、音読が苦手な子も数多く読ませることで文章への抵抗を少なくすることができた。
- 授業作りでは、教材分析、発問の組み立て方や工夫などの難しさも感じた。引き続き研究していきたい。
- 一朝一夕には漢字や語句の力をつけることはできない。日常の学習の中で意図的に設定したり、繰り返していく大切さを確認した。

III 成果物

- 1 第2学年 国語科「読むこと」指導案 教材名：「お手紙」
第1時から毎時間ごとのワークシート
- 2 第5学年 国語科「読むこと」指導案 教材名：「大造じいさんとガン」
- 3 その他の実践4単元分の記録（主な発問、指示、説明、児童の反応）
- 4 音読指導バリエーション72

（研究主任 筒井ひさ美）